

〈 セミナーのご案内 〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご閲覧につき、ご高配をお願いいたします。

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 回 | | | | | |
| 覧 | | | | | |

教授法・FD シリーズ 13(通算 417 回)

2009 年 4 月 24 日 (金)

学士課程教育の実質化 —

授業・学習活動の進化とポートフォリオ

教授法・FD シリーズ 14(通算 418 回)

2009 年 4 月 25 日 (土)

大学教員の授業改善の日常化 —

ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の展開と実践

学士課程教育の実質化 —

授業・学習活動の進化とポートフォリオ

～学生への“自学自習”支援による“総合力”の育成～

- ※ 自己成長型教育～KIT ポートフォリオシステムの全学的展開と実績
- ※ 学習到達目標・シラバスの進化／eポートフォリオの活用方策
- ※ ラーニングポートフォリオ～役割と実践、作成と評価、導入シナリオ

● 講師陣 ●

藤本 元啓 氏 / 金沢工業大学学生部長・教授
岩井 洋 氏 / 帝塚山大学教授
前・関西国際大学学長補佐・高等教育研究開発センター長
土持ゲリ-法一 氏 / 弘前大学 21 世紀教育センター高等教育研究開発室教授

2009 年 4 月 24 日 (金) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)

大学教員の授業改善の日常化 —

ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の展開と実践

～ティーチング/アカデミック・ポートフォリオの核心～

- ※ T.P の二つの目的～授業改善・教員業績評価/教員にとっての権利
- ※ 授業哲学とはその書き方/カナダの事例/メンターの役割/評価方法
- ※ アカデミック・P とは～豪・米での取組み/日本における展望
- ※ 世界の FD の潮流～ED (教育環境改善) への移行

● 講師 ●

土持ゲリ-法一 氏 / 弘前大学 21 世紀教育センター高等教育研究開発室教授

2009 年 4 月 25 日 (土) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)



地域科学研究会・高等教育情報センター

[参加要領]

日時 : 授業法・FDシリーズ13 「授業・学習活動の進化とポートフォリオ」
 2009年4月24日(金) 9:40~16:50
 授業法・FDシリーズ14 「ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の展開と実践」
 2009年4月25日(土) 9:40~16:30

会場 : 剛堂会館(明治薬科大学)会議室 (東京・麹町) ※両日程、同会場です
 東京都千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口から徒歩4分、JR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口から徒歩10分)

| 参加費 | ご一名 (資料代を含む) | メディア参加 (資料及び収録カセットテープ送付) |
|--|-------------------|-----------------------------|
| 授業法・FDシリーズ13 授業・学習活動の進化とポートフォリオ | 42,000円 (消費税込) | 43,000円(送料、消費税込) |
| 授業法・FDシリーズ14 ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の展開と実践 | 41,000円 (消費税込) | 42,000円(送料、消費税込) |

※参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。
 受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 *郵便振替:00110-8-81660
 口座名 (株)地域科学研究会
 (なお、ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/> E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

お申込み・お問合せ



地域科学研究会
 高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106
 TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2009年 月 日

■授業法・FDシリーズ13 授業・学習活動の進化とポートフォリオ

当日参加 メディア参加

■授業法・FDシリーズ14 ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の展開と実践

当日参加 メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 _____

所在地 〒 _____

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者 _____

| 参加者氏名 | 所属部課役職名 | メールアドレス |
|-------|---------|---------|
| | | |
| | | |
| | | |

(通信欄) 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 請求書(要 不要)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

| 時間 | 講義項目 |
|---------------------|--|
| 09:40 ～ 11:40 | <p>□自己成長型教育「アクロノール・プログラム」 ～KITポートフォリオシステムの全学的展開と修学支援～</p> <p style="text-align: right;">金沢工業大学 藤本 元啓</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標の階層化と明確化 2. 教育・評価システム <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習支援計画書 (2) 総合力評価 (3) 授業アンケート 3. 初年次教育とKITポートフォリオシステム <ol style="list-style-type: none"> (1) 金沢工業大学の初年次教育 (2) KITポートフォリオシステムの分類 4. 「修学基礎ⅠⅡⅢⅣ」と修学ポートフォリオ <ol style="list-style-type: none"> (1) 「修学基礎ⅠⅡⅢⅣ」の概要 (2) 修学ポートフォリオ「1週間の行動履歴」 (3) 修学ポートフォリオ「各学期の達成度自己評価」 (4) 「修学基礎」に関する授業アンケート 5. その他のポートフォリオ <ol style="list-style-type: none"> (1) キャリアポートフォリオ (2) 自己評価レポートポートフォリオ (3) プロジェクトデザインポートフォリオ (4) 各学年の達成度評価ポートフォリオ (5) KITポートフォリオシステム概念図とその運用から期待される効果 6. 修学支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 課外教育環境 (2) コース制学習クラス編成と各種教育センター 7. 自己成長型教育「アクロノール・プログラム」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習成果の数値統計 <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p> |
| 12:40 ～ 14:40 | <p>□学習到達目標とeポートフォリオの活用 ～学士課程教育における学びと教育の「見える化」にむけて～</p> <p style="text-align: right;">帝塚山大学 岩井 洋</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習到達目標の意味と意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習到達目標の意味 (2) 学習到達目標の作成方法 (3) 学習到達目標と教育改善 2. eポートフォリオの活用 <ol style="list-style-type: none"> (1) eポートフォリオの活用の意義 (2) eポートフォリオの導入事例(国内・国外) (3) eポートフォリオにおけるリフレクション 3. 学びと教育の「見える化」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習到達目標・シラバス・eポートフォリオ (2) 「見える化」とFD効果 (3) 「見える化」を通してのアセスメント 4. eポートフォリオ導入の課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) コンセンサスの問題 (2) 人的・財政的資源の問題 (3) 技術的問題 <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p> |
| 14:50 ～ 16:50 | <p>□ラーニング・ポートフォリオの活用と導入方策 ～学習実践記録による学生の学習「省察」と改善～</p> <p style="text-align: right;">弘前大学 土持ゲーリー法一</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラーニング・ポートフォリオの役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新たな学生評価～NSSE「学生エンゲージメント」調査から (2) ラーニング・ポートフォリオの構成と測定範囲 (3) メタ認知による省察 (4) ラーニング・ポートフォリオの3タイプ 2. ラーニング・ポートフォリオの実践 <ol style="list-style-type: none"> (1) アメリカ～ズビラッテ教授の実践例 (2) 弘前大学～授業の実践例 3. ラーニング・ポートフォリオの作成と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) ラーニング・ポートフォリオの作成方法 (2) ラーニング・ポートフォリオの評価方法 4. ラーニング・ポートフォリオの導入方策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 能動的学習を促す授業設計への転換 (2) MIT方式試験による学生参画 (3) ラーニング・ポートフォリオの可能性 <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p> |

| 時間 | 講義項目 |
|---------------------|--|
| 09:40 ～ 12:30 | <p>I. ティーチング・ポートフォリオの核心と導入方策</p> <p>1. ティーチング・ポートフォリオとは何か</p> <p>(1) なぜ、ティーチング・ポートフォリオが求められるか</p> <p>(2) ティーチング・ポートフォリオには、大きく二つの目的がある ①教員業績評価と②授業改善</p> <p>(3) ティーチング・ポートフォリオで授業改善ができるか 「Yes, We Can!」</p> <p>(4) 何が鍵か～「ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)」の構築</p> <p>2. ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)とは何か</p> <p>(1) ティーチング・ポートフォリオの中での位置づけ</p> <p>(2) なぜ、ティーチング・フィロソフィーが授業改善に役立つか</p> <p>(3) ティーチング・フィロソフィーには何が必要か ～学生からのフィードバック(“Learning from Student”)と教員の省察(“Reflection”)～</p> <p>(4) どのように学生を授業に関与(“Engagement”)させるか。そのためには ①能動的授業シラバスへの書き直し ②学生によるラーニング・ポートフォリオの導入が不可欠</p> <p>3. ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の書き方</p> <p>(1) ティーチング・フィロソフィーをどのように書けばよいか</p> <p>(2) カナダの事例の紹介 ①カナダ・ダルハウジー大学学習・教育センター長 Lynn Taylor の弘前大学でのワークショップ～講義とイラストによる説明</p> <p>(3) メンターの役割～「教育者総覧」の見直し</p> <p>4. ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の評価方法 ～評価基準(ルーブリック)の役割 —アメリカPODネットワークにおけるインディアナ大学の事例報告(サンプル)～ (質疑応答)</p> |
| 13:30 ～ 15:20 | <p>II. アカデミック・ポートフォリオの核心と導入方策</p> <p>1. アカデミック・ポートフォリオとは何か</p> <p>(1) アカデミック・ポートフォリオは、「教育・研究・サービス」の3つのポートフォリオから構成されるもので、「大学教育」にどのように繋がっているかが重視される</p> <p>(2) アカデミック・ポートフォリオの中心も「ティーチング・フィロソフィー」(授業哲学)でなければならない</p> <p>2. アカデミック・ポートフォリオ取組みの現状</p> <p>(1) オーストラリア・クイーンズランド大学の取組み ①アカデミック・ポートフォリオの歴史と基盤 ②アカデミック・ポートフォリオの評価基準—「客観的評価」の重視</p> <p>(2) アメリカの取組み ①ピーター・セルディンの新著『アカデミック・ポートフォリオ』 ②アメリカPODネットワークにおけるセルディンの発表 —「教育・研究・サービス」にもとづく統合的な教員業績評価</p> <p>3. 日本におけるアカデミック・ポートフォリオの展望～新たな教員業績評価への挑戦～</p> <p>(1) 大学の組織的な取組みと「リンク」の必要性～西オーストラリア大学からの助言</p> <p>(2) 教育・研究・サービス」をどのように重視するかで、各大学のビジョンおよびミッションを明確にできる(「差別化」) (質疑応答)</p> |
| 15:30 ～ 16:30 | <p>III. 世界の大学のFDの潮流～FDからEDへの移行</p> <p>1. カナダ・ダルハウジー大学 Lynn Taylor による講演 「エデュケーション・ディベロップメント(ED) —カナダにおけるファカルティ・ディベロップメント(FD)の範囲と意義の再定義」</p> <p>2. ICEDによるエデュケーション・デベロップメント(ED)の促進</p> <p>3. 大学教育環境改善(ED)～授業改善および学習改善のすべての向上を目指す (質疑応答)</p> |